

V．発掘調査技術等研修会の記録

平成22年度 発掘調査技術等研修会 開催報告

1. 目的

文化庁より刊行された「発掘調査のてびき」に関して、てびきの詳細な内容や愛知県埋蔵文化財センターでの具体的なてびきの導入・実践例について研修する。

2. 主催

愛知県教育委員会／(公)愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

3. 日程

平成 22 年 12 月 3 日 (金)

4. 会場

愛知県埋蔵文化財調査センター

2 階研修室 (愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24)

5. 内容

- (1) 講義「発掘調査のてびき」について
近江俊秀 (文化庁記念物課 文化財調査官)
- (2) 報告「発掘調査のてびき と電子納品について」
赤塚次郎 (愛知県埋蔵文化財センター)
- (3) 報告「発掘調査のてびき を活用した実務マニュアル作成」
永井邦仁 (愛知県埋蔵文化財センター)
- (4) 報告「当センターにおける 発掘調査のてびき活用例」
奥野絵美 (愛知県埋蔵文化財センター)
- (5) 意見交換会

6. 参加者

60 名

平成 22 年 3 月、文化庁によって「発掘調査のてびき」が刊行された。「発掘調査のてびき」は、遺跡における発掘調査・遺物の整理から報告書の作成までの標準的な方法を示すものである。愛知県埋蔵文化財センターでは平成 22 年度夏期に、この「てびき」に基づいた方法で発掘調査を実施した。また、当センターでは、「てびき」を活用



研修会場



研修会場

した実務マニュアルである「愛知県埋蔵文化財センター 基本マニュアル 2010」の作成も進めている。今回研修では、文化庁の近江氏から「てびき」についての基本的な内容の講義を受けるとともに、県下でもいち早く「発掘調査のてびき」を導入した当センターの現在の「てびき」実施状況を公開することとで、てびきの具体的な活用例を研修した。講義等の概要は以下の通りである。

(1)「発掘調査のてびき」作成の経緯説明と「てびき」の意義の解説、および「てびき」の詳細な内容の講義。「てびき」で示されているのは現時点で提示できる標準的な発掘調査方法。よって発掘調査の現場では、「てびき」で示されている方法を厳守することに終始するのではなく、新たな方法を積極的に取り入れ、作業を効率的に進めることが大事。発掘調査の作業を機械的に進めるのではなく、作業のより適切な方法を発掘調査の中で模索し、必要な情報を記録していくことが重要である。

(2) 調査成果のデジタル納品について。「てびき」内の説明で不足している部分を補足。デジタル化を進める目的は、調査で得られた情報を万人が共有・活用できる状態にすることにある。

(3) 愛知埋文で、「発掘調査のてびき」を基に作成している「愛知県埋蔵文化財センター基本マニュアル 2010」について担当者より内容を報告。分かりやすく、使いやすい遺跡データを取得するために必要な手順を、「てびき」で示されている方法を基盤に当センターで独自にマニュアル化している。マニュアルは平成 23 年度 4 月より施行予定である。

(4) 本年度、清洲城下町遺跡で「発掘調査のてびき」にもとづいて行われた発掘調査の内容報告。清洲城下町遺跡で平成 22 年 5 月～8 月にかけて行われた発掘調査で実施された。「てびき」で示されている方法を、現場で実際にどう用いていくかは現場調査員の臨機応変な対応が必要である。

質疑応答では調査成果情報のデジタル化についての質問が多く、議論が活発に行われ、有意義な会となった。(奥野絵美)



研修会場

